

平日  
22、10.26

# 極め隊

記者の県北体験記

雨の日は家に閉じ込められて退屈という発想は、山の屈強な男たちにはさらさらしない。蘆駒場所の河口を目指して川を下る落ちアユを、投げ網で取る「投げさし網漁」は雨で増水した日こそ狙い目。県内全域で雨となった24、25日、延岡市北

浦町三川内の小川での漁に同行した。  
(延岡支社・堀口佳菜子)

「嵐を呼ぶ男」という言葉がよく似合うかも。「上流に近いし、水もきれい。型は小さいけど、味は間違いない。県内一じゃろ」。三川内の下塚地区では自他ともに認める腕利きの日高節夫さん(55)が、川のごう音に負けないように声を張り上げる。「雨の日には群れで来て、ふち全体をうたえ円(を)描いて(びんを)一と(を)回(る)から」。狙い目の日は「アユが回ると表現されるといっぱい得意そうだったという。獲物を狙うサギのよう

延岡市

延岡市

## 投げさし網漁

時期



投げさし網漁は、川に自生する竹柴(しば)を渡して堰(せき)を作り、そこを越えようとするアユを投げ網で捕る漁。柴堰漁とも言ふ。下塚地区では、地元の内水面漁協の組合員にしか許されていない。産卵時期を迎える9月から稲刈りが終わる10月ごろに行われるが、今年はその時期が遅れて11月いっぱいまで続いたという。

ど、味は間違いない。県内一じゃろ」。三川内の下塚地区では自他ともに認める腕利きの日高節夫さん(55)が、川のごう音に負けないように声を張り上げる。「雨の日には群れで来て、ふち全体をうたえ円(を)描いて(びんを)一と(を)回(る)から」。狙い目の日は「アユが回ると表現されるといっぱい得意そうだったという。獲物を狙うサギのよう

# 雨天日の増水狙い目



アユの群れを逃すまいと、竹柴から作った堰から水面に目をこらす日高さん(左)。重さ約3kgの投げまくり(投げさし網)はいつでも投げる準備をしている。

に水面(みなも)をただ見詰める時間が続く。赤く濁った川底に事前に白いボードを沈ませ、その上を通る魚影でアユを確認するのが、男たちはウエットスーツを着ている。雨に打たれながら7時間も川の中。2時間の記者でさえ、足元から体のしんが冷え、びりびりとしびれすら感じる。「一」。日高さんが1点を指で差す。群れが現れた。ほかの4人も気付く。「いい? いくよ、せーのっ」。5人の手から川に入った。前日と違っ

て川は澄み、肉眼でも群れが見える。しかし水は引き、アユが深みに移動。石に付いたけい藻を食へ始めてしまった。「もう駄目やね」。言葉とは裏腹に、日高さんはいつまでも川から目が離せずにいた。刃物のようにきらりと光るアユの白い腹が、「また来いよ」と挑発しているようだった。「いつか大群れ来やせんか」。淡い期待を抱き、下塚の男たちは次の雨を待つ。

― 随時掲載 ―